

## 『ふと思う』



茶と白と黒の毛の背中をツンと伸ばして、猫のチイは時折、大きな窓越しに外の世界を眺めている。

外からは、同じく複雑な模様の痩せたノラちゃんが家の中を覗き込む。

驚くほど長い時間、二匹はそうして向き合って、それはまるで何かを語り合う老人のようにも見える。

チイは、五年前の東日本大震災で被災し、飼い主とはぐれたまま仙台のセンターで保護されていた猫である。

友人が、新しい飼い主を探すために他の猫たちと一緒にセンターから引き出し、まだ余震の残る混乱のなか東京へ連れて来たのだが、何とその時チイのお腹の中には仔猫の命が宿っていた。

あの、ギュウギュウに詰め込まれたパニック状態の施設の中でも動物としての

営みは行われ、こうして命が宿るのだ。

チイの妊娠を知ったとき、何とも切なく思ったが、同時に大変感動した。

「それでも、命は誕生するのだ」と。

元気に産まれてきてくれた仔猫たちの新しい飼い主を探し、一緒に連れて来た6匹の猫たちの行き先も決まったと言うのに、チイだけが何故か取り残されてしまった。

友人宅で初めて東京へ来たばかりの複雑柄のチイを見たとき、私はつい、「お前、ウチに来るかもね。」と言ったことを覚えている。当時、猫一匹、犬二匹ですでに手いっぱいになっていた私が何故そんなことを言ったのか不思議なのだが、結局、チイはこうして5年、我が家で私と暮らしている。

そんな自分の身の上話でもしているのか。ノラちゃんの苦労話でも聞いているのか。

窓の外の野良猫をじっと眺めるチイを見ていると、ふと、「幸せって何だろう。」と、思う。

チイは、自由にどこにでも行ける野良猫を羨ましく思うだろう。野良猫は野良

猫で、あたたかい部屋でいつでも新鮮な水とたっぷりの食事が与えられるチイを見て、「いい暮らしぶりだぁ。」と思うだろう。

猫に生まれて、猫の一生、どちらが<幸せ>と呼べるものだろう。

陽だまりの中、そんな猫たちを眺めながら、人に生まれた私は、「さあて、人間の本当の幸せって何だろう。」と、考える。

猫との暮らしは、人を少し哲学的にしてくれる。



歌手 神野 美伽

神野美伽